

「ジュニアライターがゆく」来月スタート

「ピース・シーズ」は今回で終わります。中国新聞の新紙面がスタートする3月からは、ジュニアライターの活動の内容や取材の成果を多彩に紹介し、中高生の生の声を伝える新企画「ジュニアライターがゆく」を月曜日朝刊の「平和のページ」に掲載します。これまで通り、月1回です。第1回は3月18日朝刊を予定。70年前に原爆の爪痕が深い広島で困った人たちのために家を建てた米国のフロイド・シユモーさんを学び、その意味を考えます。ご期待ください。

第65号

被爆した寺・神社を巡る



爆風のすさまじさ 今に



本堂前で原爆の記憶を語る前田さん

瓦をモニュメントに

善法寺（西区）の本堂は1936年の完成です。建物が爆心地の方を向いていたため、西に2・74m離れたいても爆風を受けて西側へ傾き、天井のほとんどが落ちました。当時5歳だった前住職の前田至正さん（79）はお寺の住居部分で被爆。寺はけが人や住まいを失った人を受け入れ、いっばいに亡くなった人は近くの土手で焼かれ「何とも言えない臭いが漂った」と振り返ります。傾いた本堂は2001年の若予地震にも耐えました。09年の本格的な修復工事でまっすぐになりましたが、爆風に耐えた欄間の一部は残り、被爆瓦は中庭に積み重ねてモニュメントとして置いています。前田さんは「核廃絶のために物言わぬ証人として大切にしたい」と話しました。（高3 松崎成穂）

善法寺



爆風で屋根が飛んだ様子を話す川口さん

壊れた屋根 元に戻す

吉島稲生神社（中区）は市の被爆建物に登録されていません。管理する吉島西町内会長の川口護さん（76）によると、1927年に完成した本殿が被爆したそうです。爆風で屋根が境内脇の水路に吹き飛び、支える木材も欠けましたが元に戻しました。境内のクスノキやエノキも大きな被害はありませんでした。江戸時代からの神社を守るのは近頃の人のたち。改修のたびお金を出し合ひ、昨年本殿の表面を磨いてきれいになりました。川口さんは「次世代へバトンタッチして原爆も伝えたい」。初詣や秋祭りを通し、愛される神社を目指しています。（高1 佐藤西）

吉島稲生神社

1835年に建った新庄之宮神社（西区）の拝殿は重厚感があります。そばで伸びるクスノキは樹齢500年以上。ほかにムクノキもあり、これらの木々が火の手を遮って神社は焼けずに残ったと考えられます。爆心地から2・9km北にあります。戦後は柱が腐ったり虫に食べられたりし、2004年に大改修しました。被爆者で町内の代表として管理する越智茂雄さん（76）は「神社は地域のシンボル。原爆に耐えた証しとして残したい」。木々が静かに見守る中、小鳥のさえずりが響く憩いの空間でした。（中3 平松帆乃香）

新庄之宮神社

爆心地から半径2kmの円



木々に囲まれた神社の歴史を話す越智さん

尾長天満宮



拝殿で戸と柱の隙間を指さす渡辺さん

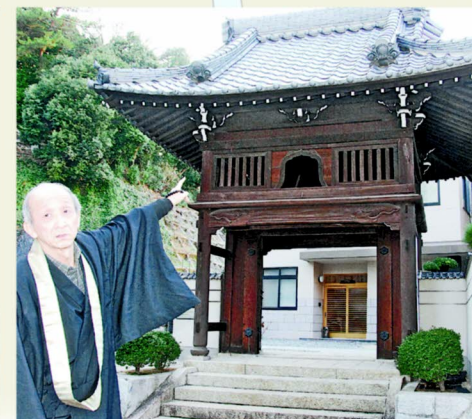
隙間・傾き残ったまま

爆心地から北東に2・6km。尾長天満宮（東区）。拝殿に入ると戸と柱の間から外の光がもれていました。隙間は最大で約1cm。宮司の渡辺清臣さん（64）によると、爆風で南東へ建物が傾いた名残だそう。1937年に饒津神社から移された拝殿です。被爆後、戸と柱の隙間は5cmありましたが板を当てて埋めました。雨漏りもひどくなり、2006年に修復工事を終了。瓦を取り換えたが、傾きは完全に直りませんでした。境内のこま犬は戦時中の金属供出でなくなり、56年に石で復元されました。様変わりする近くの広島駅北口と比べ、「ヒロシマ」が残っています。（中2 桂一葉）

再開発から山門を守る

明泉寺（南区）は1921年ごろに建った山門だけが残り、住職の明泉至芳さん（69）が山門を残すかどうか悩んだのが、90年代の再開発でした。解体する案がありましたが、市の担当者や何回も話し合い、新しく造成した土地に移しました。残そうと思ったのは、ほかの寺を見て気付いたことがきっかけです。原爆で焼け、再建した寺では山門はほとんど建て直されていなかったのです。原爆にせうかく耐えたのだから壊すのはやめよう。山門を鉄パイプで補強し、クレーンでつり上げることで南へ15mの現在地へ動かしました。明泉さんは「まるで風船が浮かぶようだった」と思い出します。被爆建物を巡る一つのドラマ。自分も聞いていて胸が熱くなりました。（高1 川岸真織）

明泉寺



被爆した山門を守ってきた明泉さん

継承していくために

みんなの支え 大切

原爆では、当時の広島市内にあった建物のほとんどが被害を受けました。爆心地では地面の温度が3千～4千度に達し、秒速440kmの爆風が吹いたとされます。半径2km以内では、木造の家がつぶれて燃えました。ジュニアライターが巡った5カ所の寺や神社は木造のまま残り、守られてきました。火災が広がった半径2kmのエリアの近くにありますが、ぎりぎりのところで残ったのでしょう。

被爆建物は老朽化が進んで壊されることが多く、広島市は保存と継承を呼び掛けようと、1993年から半径5km以内の被爆建物の登録を始めました。現在は原爆ドームをはじめ85件が登録されています。今回の取材では、古くから地域に根差した建物が大切にされてきたことが分かりました。それをヒントに被爆建物を残していくための方法を考えました。

中高生の提案

会員制交流サイト(SNS)で発信する

被爆建物を見たらインスタグラムやツイッターなどにアップし、平和に関心の低い人にも見てもらう。

ツアーを開く

原爆ドームなど有名な場所だけでなく、立ち寄ることの少ない被爆した寺社も。

校外学習に取り入れる

被害の痕が残る近くの神社やお寺を小学校の時に訪れる。壁新聞やマップを作り地域の掲示板に張り出す。

私たちもしっかり被爆の歴史や人々の思いをこれからも取材して紹介していきたいです。

（高2 藤井志穂、高1 伊藤淳仁）